

## 「消えゆく屋内昆虫」

都会暮らしの私たちでも、日々、いろいろな昆虫を目にします。家屋内にも、ゴキブリ、小バエ、小さな蛾や甲虫類、シミなどが住んでいるからです。これらの家屋害虫は食品や衣類を加害し、根絶するのが難しいものです。しかし、家屋性の昆虫で今まさに消えていこうとしている種があります。ヤマトオサムシダマシは、体長20mm余りの甲虫で、納屋や厩舎で時折見かけました。九州と近畿地方に多い虫だったのですが、現在では環境省のレッドデータブックに準絶滅危惧種として掲載されています。研究所で調べたところ、この虫は枯草、穀類、乾燥動物質を好んで食べて発育することが分かりました。納屋などに蓄えられている藁、穀類、昆虫やネズミなどの死体を食べて生活してきたのでしょう。



ヤマトシミ  
(古書や障子紙を食べる)



ヤマトオサムシダマシの成虫と幼虫

家屋環境の近代化によって住める場所がなくなっているのです。なお、この虫は分布域と生息環境が特殊なので、古代に中国から日本へ侵入したとも考えられています。外来生物でありながら保護すべき対象となっている珍しい例なのかもしれません。

(都市環境グループ 山崎 一夫)

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所・大阪市立環境科学研究所 共催

平成24年度  
連携セミナー

## 大阪の昆虫を考える



### 1. 身近な昆虫と植物の関係

山崎 一夫 (大阪市立環境科学研究所)

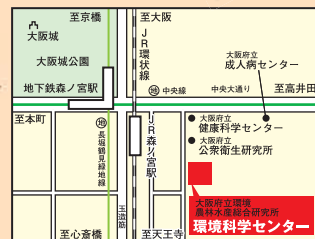


### 2. 農業における昆虫利用～飛ばないテントウムシなどを例に～

柴尾 学 (大阪府立環境農林水産総合研究所)

### 3. 身近な昆虫が害虫に～関西空港におけるトノサマバッタの大発生～

田中 寛 (大阪府立環境農林水産総合研究所)



- 日 時：平成25年3月13日(水) 14時～16時30分
- 会 場：大阪府立環境農林水産総合研究所 環境科学センター環境情報プラザ研修室  
〒537-0025 大阪市東成区中道1丁目3-62
- 定 員：60名(お申込み先着順) ●参加費：無 料

●お申込み●ファックスで受け付けています

**FAX : 072-956-9790 (平成25年3月11日(月) 必着)**

「氏名と電話番号、FAX番号、Eメールアドレスなど必ず連絡のつく連絡先」をご記入ください

●申 込 先：地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 経営企画部 普及広報課「連携セミナー」係

◎問合せ先：地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 経営企画部普及広報課 TEL: 072-979-7070  
大阪市立環境科学研究所 調査研究課企画グループ TEL: 06-6771-3043

本誌は年4回(6・9・12・3月)の発行です。

本広報誌では皆様からの質問コーナーを設けております。環境、衛生、栄養などに関する質問を郵便や電話で気軽にお寄せください。

〒543-0026 大阪市天王寺区東上町8番34号 電話06-6771-3043

大阪市立環境科学研究所 調査研究課企画グループ「健康・環境・サイエンス」係

ホームページアドレス [http://www.city.osaka.lg.jp/shisei\\_top/category/893-33-4-0-0.html](http://www.city.osaka.lg.jp/shisei_top/category/893-33-4-0-0.html)